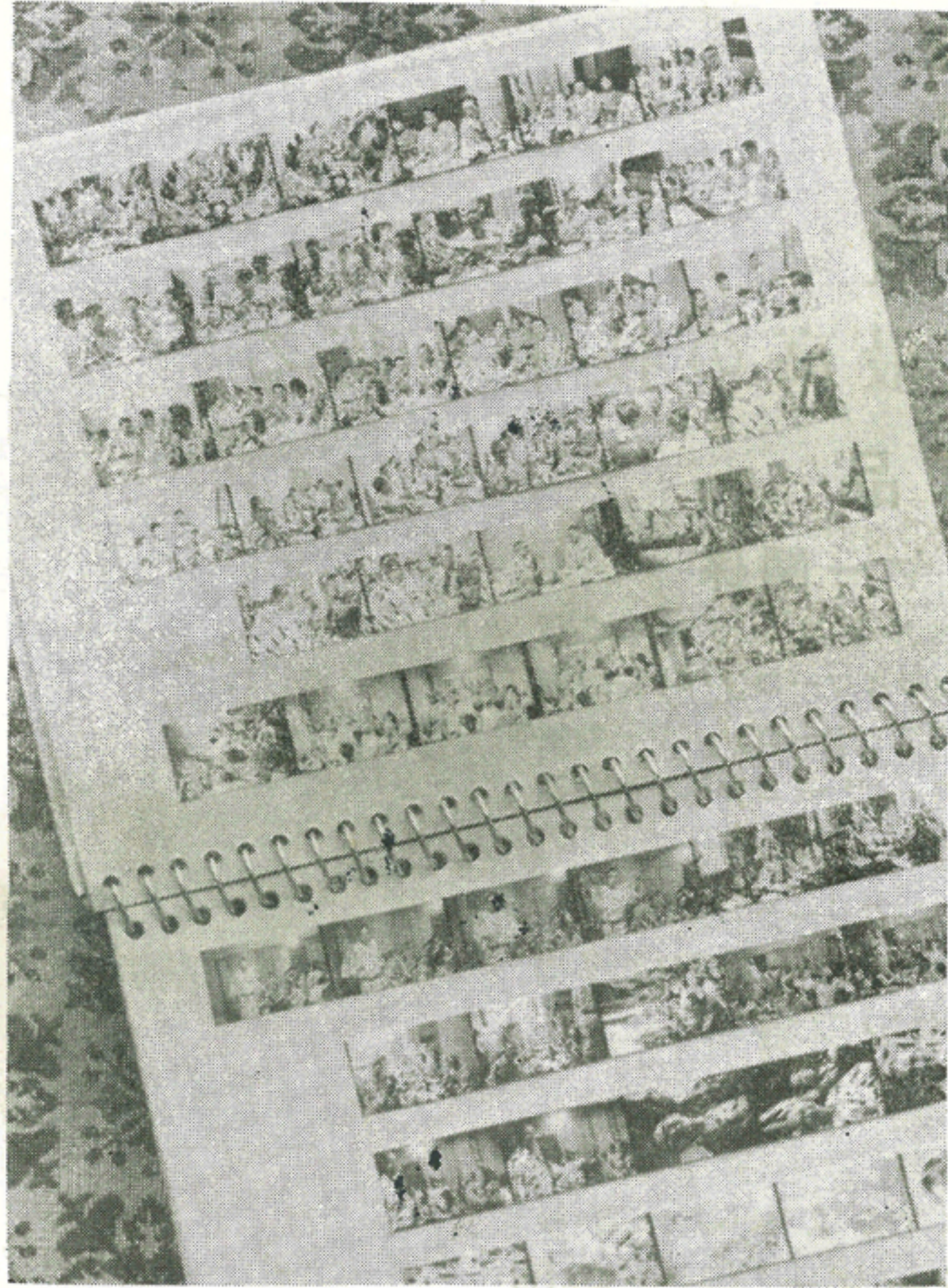


三〇周年記念アルバム



緑
丘

全 国 版

(通巻)No. 37号
(39年度 1号)

(編集責任者)

大阪市東区道修町三の一
塩野義製薬株式会社内
森目英三

(緑丘大阪支部)

大阪市北区梅田八番地
新阪急ビル 8 階
サッポロビール(株) 内

緑丘会神戸支部幹事長

本 間 広 松

(昭八)

昭八が三〇周年目に会った旧師、学友との集会時の嬉しさは、とても拙筆では尽し難い。

思い出しても嬉しくなる。その時のアルバムを老眼鏡をかけて見ていると、学生時代の青春を思い出す許りでなく昔の恋人(学友)の姿を見ているような気持ちになるのは一人のみではないと思う。

特に私のように在満出征のため卒業時のアルバムを失ったものには殊さらその気持が強い。

嬉しい一時を与えてくれた記念集会時の幹事から、アルバム作成の企画を知らされては、おったものゝ、こんな立派なアルバムを手にした時の喜びは何ものにも替え難い。有難さ一杯である。当時のアルバムの一頁を表紙に掲載するとの事で、突然ではあったが進んで筆をとった。

後輩の方々が二十五周年、三十周年の記念会合をもたれるならば、必ずアルバムを作られるようおすゝめする。兎に角アルバムとはこんなに心暖まるとは初めての経験、幹事に感謝するのみである。

うまさもでっかい

話題の生ビール

サッポロジャイアンツ





最高の品質と 最高の技術を誇る

KYCの製品

コンベヤー関係

- ベルトコンベヤー各種
クライマーコンベヤー各種
スラッターコンベヤー各種
ローラーコンベヤー各種

ミキサー関係

- コンクリートミキサー各種
バッチャープラント各種

KYC ポンプ各種

計量器関係

- セミバッチャー各種
KYCスケール各種

KYCモータープリー各種

総合建設機械のトップメーカー

KYC 光洋機械工業株式会社

取締役社長 奥村正美(昭17年)

Table with 3 columns: Branch Name, Address, Phone Number. Includes locations like Osaka, Tokyo, Fukuoka, etc.

読者の声

ちよつと一言

佐藤 信雄 (大一一)

長い間教師をしていたので、つまらんことが気にかかる。
「緑丘」三十六号八頁に加地君が一文を書いているが、そのなかに浜林先生がFALSE TEETHの意味が分らず、

加地君が書いている話は、先生帰朝後私も書いた記憶があるが、私の記憶に誤りがなければそれはPLATEという誤りであったように思う。ひょっとしたら「英語の背景」にでも書かれていなかったかと思つて探したが見つからない。
PLATEは研究社の英和による「義歯仮床」となっているが、こういう意味に用いられることが、C

ODにのつたのは、一九三四年に出た第三版の附録が始めてで、それ以前のCODにはのっていないのである。それを見ると浜林先生がゴルフスワージーにきかれたのは、PLATEであつたらうと私は考える。
しかし当時私はまだ若く、入れ歯に関心もなかつたから、私がきく違えていないとも保証できない。この話を他にきかれた方があればお気附の点を教えていただきたい。
一九六四・四・一一

佐藤氏に答う

加地 幸一 (大一一)

緑丘三十六号掲載の小生の寄稿に対し佐藤信雄君が「ちよつと一言」申出があつた事は浜さんに対して、皆がどんなに関心を持って居るのか一端を示したもので嬉しい。私の記憶からすると私の書いた事に誤りないように思う。私に送つていただいた緑丘三十五号三十六頁に、岡本元次(昭十二)君が「ある言葉が理解出来ず英国で指導を受けている師に訊ねたらI envy Youといわれた。何でも入れ歯の意味だつたと記憶する」と書かれているので帰朝後の講義の際にも話されたかと思う。私も実は其の時まで「入れ歯」を英語でfalse teeth. ということは知らなかつたので、この話がこんなに印象に残つたわけです。

「浜林先生追憶特集号を読んで」に感あり

板倉 誠 (大九)

浜林生之助教授は小樽高商の金星であつた。教授は大正九年から昭和二十二年亡くなるまで、長い間小樽高商生の教育に専念された。私が海の見える丘を下りた年に、教授が地獄坂をお登りになられたので、親しく御指導を受けなかつた。
「緑丘」昭和三十九年一月二十五日第三十五号に掲げられた浜林生之助先生追憶特集号を読んで、緑丘にこれ程偉大なダイヤモンド鉱脈(浜林先生とその教え子たちの一群)があつたのかと喜びました。教授を慕する方々が、ありし日を冥想して丹念に書いています。その書き振りに人物月旦のオーバな跡がなく、全く飾り気のない真実であります。私は其の感嘆之を久しうしたのであります。ここで当然感想文が出る所ですが、先生に近い有能な大勢の弟子も居ることだからマアマアと思つていました。

今回「緑丘」昭和三十九年三月三十日第三十六号、「浜林先生追憶特集号」を読んで「を讀みまして種垣芳雄先輩(大六)「読後、感深し」に強い電撃を覚えました。それは種垣先輩の文章が、義太夫長唄の文句の如く一字一句の加除も許さず、微に入り細に亘り、余す所なく順序正しく述べた素晴らしい名文だからです。

す。大方各位の一読を御勧め申し上げます。
浜林教授は、津師範から広島高師と、教育者として最高の殿堂を踏んでおられます。福島中学時代はいかに生徒に畏敬されたかは、古関周蔵君(大一一三)の記事で明らかです。弟子思いの師の思情が、綿々と進んでいます。古関君から出た教授の和歌二首の筆蹟も、いまとなつては先生不滅の姿とも見られます。ですから古関君を辿つて行けばまだまだ沢山のエピソードが発掘されるはず。
浜林教授という名木を見付けて、小樽校庭に植へ込んだのは誰あろう苦米地先生であつた。先生は我が国コロンボの最高峯である。それ自身御立派な大家ですが、また一面人材探査の名人です。卒業生を適材適所に送り込んだ御功績も大きいです。
加地幸一君(大一一二)が「浜林特集号を読んで」を載せている「緑丘」三十六号に英国留学中の教授の記事を高く掲げましたが、これは貴重なものです。
浜さんが英国の文豪と往來したり英国全土を史蹟巡礼したり、英国人の英語を直してやったり、英文の直訳は文学として味がないので日本語の力が同じ位必要だと言われたりするなど、浜林教授は英語の博士であると同時に日本語の博士だと申し上げてよいでしょう。
英国の学者の間に浜さんを賞讃する声が高くなり文豪 Goldsworthy から彼の絶筆ともいふべき手紙を貰つて大切にしていたという話です。

私は活字を通して見た浜さんが、緑丘同窓生に多大の感銘を与えたと
 思います。活字でなく、此等の投稿
 者諸兄から直接生の声で故人の物語
 を承りましたならば、なおさら実感
 が湧くと思ひますので今後の会合の
 機会を捉えて皆様方に随時御登場願
 いたいものです。
 小樽商大の意気軒昂と前途の洋々
 を信じて筆をおきます。
 (三九、四、八)

苦米地 英 俊
 (元校長)

花を見ぬうちに桜も散りました。
 本年はこの外多忙の日が続き、緑
 丘No.35を読む暇もなく御礼を述べ
 るうちに、No.35が濡れしづくにな
 り飛び込んで来ました。悪天候下の
 旅行をいたわり早速ガス、ストーブ
 で手当てしてやりましたが、一晩と半
 日で恢復いたしました。けれども中
 味にはまだ触れることが出来ませ
 ん。この二つの号はゆるりと拝見し
 御芳志を十分に感謝し御苦勞に酬
 いと存じます。

大三四同期生会に
 招かれて

(伊豆・船原ホテルにて)
 室谷 賢治郎
 (元教授)
 遠くなる明治に生れしこの身にも東
 都は近しジエツト往き交ひ

寺田弥一郎氏(天一)
 を悼む

墓目 英 三
 (昭二)



寺田さんと知り合うようになったのは、この「緑丘」が生れてからである。私が京都支部創立以来、毎年総会に招ねられて、寺田さんとも話合う機会ができるようになった。物静かな口数の少ない、寺田さんではあるが、ひとたび筆をとると、ハガキならば約一千字、便箋ならば二千文字の文字を冒頭の拝啓から拝具まで一字も崩すことなく、几帖面に、しかも、よどみない文章で私だけでなく、誰れにでも通信をされていたようである。
 「緑丘」発刊が予定より遅れたある時、「病氣をしているのではないか、転任になったのではないか、もし、そのようなことがあったら全国の緑丘ファンは、どんなにがっかりするであろう。見るべきものが見えないと、何となく淋しいような気がするの、自分で不思議です。やはり貴兄の丹精の編集による緑丘誌の内容充実と進展に心惹かれておるためでしょう。」と激励を惜まなかつた。このような藤の人があつたればこそ、「緑丘」が今日まで続いて来たものであると思う。常々私淑していただけに、この赴報を受けた時は私は全身血の引く思いであつた。燃えるような新緑の四月十二日、忌明法要が、静かな本山妙心寺の慈雲院で営まれ、椎名先生や故人と同期の大泉宗次さんと共に、お詣りすることができた。その時、大泉さんから、寺田さんが亡くなるまで日誌を克明に付けておられたので、同期に計って遺稿集でもとの考を洩された。早速寺院で、御子息寺田和民氏(東京都文京区駒込浅草町一〇四茨城荘内)に日誌借用方を申入れた所心よく送っていただいた。荷ほどきももどかし、四冊の日誌の所々を拾い読みしたが、この日誌の書き起こしから最後の頁まで、一字も崩さず、一行の余白も残さず、一冊三百七十余頁をギツシリ埋めておられた。そのなかに「緑丘」を講義するとして、六頁に亘り、筆者に出した手紙全文を記録し、筆者の返事も寺田さんの手で、その日誌のなかに転写されているのを見た時、とめ

るであらう。見るべきものが見えないと、何となく淋しいような気がするの、自分で不思議です。やはり貴兄の丹精の編集による緑丘誌の内容充実と進展に心惹かれておるためでしょう。」と激励を惜まなかつた。このような藤の人があつたればこそ、「緑丘」が今日まで続いて来たものであると思う。常々私淑していただけに、この赴報を受けた時は私は全身血の引く思いであつた。燃えるような新緑の四月十二日、忌明法要が、静かな本山妙心寺の慈雲院で営まれ、椎名先生や故人と同期の大泉宗次さんと共に、お詣りすることができた。その時、大泉さんから、寺田さんが亡くなるまで日誌を克明に付けておられたので、同期に計って遺稿集でもとの考を洩された。早速寺院で、御子息寺田和民氏(東京都文京区駒込浅草町一〇四茨城荘内)に日誌借用方を申入れた所心よく送っていただいた。荷ほどきももどかし、四冊の日誌の所々を拾い読みしたが、この日誌の書き起こしから最後の頁まで、一字も崩さず、一行の余白も残さず、一冊三百七十余頁をギツシリ埋めておられた。そのなかに「緑丘」を講義するとして、六頁に亘り、筆者に出した手紙全文を記録し、筆者の返事も寺田さんの手で、その日誌のなかに転写されているのを見た時、とめ

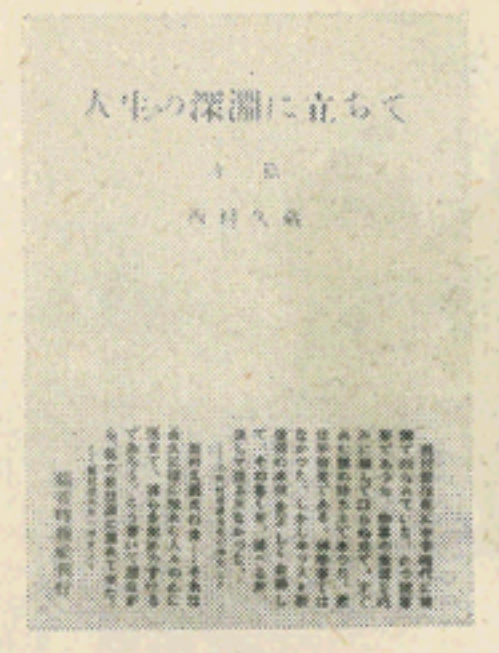


益荒男にまじって獲物嗜めり内助の功樹てし人々
 ひんがしのパーベキニとぞ名付け
 まし伊豆船原のお狩場焼は

どもなく涙が流れた。
 また寺田さんは伴房次郎先生とも親交が厚く、先生の書翰三十数通を保管され、書翰集発刊企画を発表した時「再び出ることのない出版物であるから、決して急いではいけません。立派な本に仕上げてください」と激励して下さったのも、寺田さんだつた。せめて在世中に出版して喜ばして上げたかった。かえすがえすも残念である。ただ御訃の言葉を心のなかに念じつゝ御冥福を祈つてい

この大先輩の
 真実の声を聞け!!
 (遺稿)「人生の
 深淵に立ちて」

若山 永太郎
 (昭一三)



何かが狂ってる、本当に何かが狂っている。
 今日の世相をみて、私共は誰れでもそう考えていることと思う。こんな状態で日本の国民はよいのだろうか?.....お互に毎日自問自答していること、思う。もともと真実の姿を、私共の赤裸々な真実の姿を見つめてみる必要があるのではなからうか.....
 此程たまたま縁があつて大先輩、大正十年卒西村久蔵氏の遺稿「人生の深淵に立ちて」(一九五四年一月十日発行、日本基督教会編集)を日本基督教会大阪西教会牧師、武田瑛四郎先生より拝借することが出来た。私はキリスト教信者ではない。だから西村先輩の説いておられるキリスト教に関するご意見はよく理解できない。しかし、西村先輩の真剣

な人生に対する態度、ご意見、その実行振りを拝読して、私自身は果して其の何十分の一かでも人生を真剣に考えているかと自問して、全く尋ねたるものがある。
 我々の同窓先輩各位には、随分異色の存在があることは皆さんご承知の通りである。小林多喜二氏然り、伊藤整氏然り、若手では岡田春夫氏また然りである。
 しかし私共が全く知らざる西村氏の如き、立派な大先輩がほかにもたくさんあるのだと思うと、我意を得たりとばかり私は誇りを感じていない。西村氏はキリスト教の職業伝道者ではない。小樽商大正十年に卒業して一時銀行員として、一時は応召軍人として、そして六年間に亘って札幌商業の教師として教鞭をとられた。またその後、家業を継ぎながら、氏が真実の教えと信ずるキリスト教の伝道に人生を捧げたのである。
 (前号木村章三氏紹介)
 この遺稿は中版のノートブックに実に一〇冊残されている事が発見されて、いまから十年前に遺稿刊行されたものである事を知った。
 先輩(宮地邦介氏大一一)の言によれば西村氏は弁論部に所属し、仲々の雄弁であり、柔道部にも所属しており、ある日道場でこっぴどく投げつけられた思い出もあると、その快男児振りを語ってくれた。私はこの遺稿集を読んで行く内に彼の偉さに胸打たれるものがあつた。
 氏は、風紀のよくなかつた札幌商業に教鞭を執りはじめて四・五年にして校風が一変してしまつたとい

う。学業操行とも優秀な者たちが校風の中堅となり、そしてその大部分がクリスチャンになつていったその感化力の偉大さ。教育者として立派な業績を挙げつゝある西村氏が商人として再出発し「洋生の西村」として、その名も北海道にまたたくまに知れ渡り、札幌駅前同店を繁栄せしめた経済人としての彼。
 彼西村氏は伝道のため必要とあるなら時も物をも惜しみなく捧げて遠巡することを知らず、いやな顔もせず、みづから多忙な事業を持ちながら東西に奔走して、実に忠実に尽したという。その彼の献身的努力。「義を見てせざるは勇なきなり」という武士的態度を以て人に向い、彼が人を諫める時は彼自身の謙遜が輝き出ている。
 西村久蔵の愛——それは永久に彼に触れた人々の心に活きて、彼らを慰め、力づけるであろうと植村環氏は語る。氏の御生前に直かに、その熱氣あふるゝお話を承ることの出来なかつた事は誠に遺憾である。
 (丸嘉機械株式会社専務取締役)

カラチから

亀井 尚一
 (昭一八)

「緑丘」浜サン特集号懐しく拝見
 浜サンの言動の一つ一つが鮮やかに
 思い出され、心から冥福を祈つた次第。
 先月末板垣与一先生がイタリヤ
 からの帰途立寄られ、共に食事をしながら
 緑丘の事を語り合いました。
 小生も愈々五月初めに帰国します。
 新勤務店は神戸です。

冷暖房及び管工事全般設計監督施工

日邦工業株式会社

取締役社長 井 薬 政 市
 相談役監査役 宮 地 邦 介 (大11)

大阪市西区南堀江通1丁目2番地 電話大阪 (531) 8461代 ~5番

出張所 堺市浜寺石津町東2丁目702番地 電話堺(0722)③2642番

工場 同上

旧師近況

松尾教授天狗山スキー同行記

越崎清二(昭一)



(上) 右から松尾教授、松尾教授、松尾教授
(下) 中央から松尾教授、松尾教授、松尾教授

三月最終日曜の二十九日今シーズンのスキーも愈々終盤に近く、不図思いついて、松尾先生宅に電話で天狗山行きを、お誘いして見ると二つ返事での御快諾を得た。アノラックをかぶりスキー靴をサックにおさめながら、思い廻らすと、同じ地元の小樽に起居しながら、麻田教授などと三人で天狗山へ出かけた折から何年振りのことであろう。二週間前の三月十四日市民会館での新卒業生の歓迎会の席上、最近ニセコへもツアーに行かれたことを承ったのが、天狗への誘いの直接の原因であるかも知れないと思つた。

空は快晴ではなかったが、薄曇の

なから時折陽がさし込み、午前十一時リフトの周辺には、既に百名あまりの若いスキーヤー達が色とりどりのヤツケを身につけて順番を待っていた。そのなかに凶らずも同期の工藤康利君を見出して「ヤアヤア」と挨拶を交はす。男女を交えた十代、二十代のスキーヤーが圧倒的ななかに、四十代、五十代のロートル組もチラホラ散見する。順を待つことと三十分あまりでリフトの上の人となる。眼下にスラロームを楽しむ者、飛鳥の如く直滑降を試みる高校生などを眺めながら、僅か八分間にして頂上に達する。三十年前入学生年の昭和八年春、全学年で天狗山登山を行ったことを回想、隔世の感を新たにした。

往年の山岳部長松尾教授の後に続いて天狗の壁を下る。雪質は完全なザラメ雪。粉雪の爽快さは望み難いとしても、春山スキーを楽しむには申し分ないコンディションだ。名だたる高橋次郎先生直伝のシユテム・ボーゲン正統派であるから骨折の心配は聊かもない。

ヴェテランコースをひと滑りしてヒユツテに到り、缶入ビールにノドをうるほす味は、また格別だ。こゝで松尾先生も顔馴染の北海タイムス短歌選者の戸塚新太郎氏と落合ろビールを傾けながら、ヒユツテ少憩

時の会話を録音しよう。

T「小樽と札幌のグレンデでスキーヤーの年令層に若干の隔たりがあります。小樽では我々六十才代が最高ですが、札幌は十年多い七十才が滑っている。」

M「今シーズン漸く初心者コースが出来たが、これまで小樽は壁のコースしかなかった。高橋次郎さんあたりが、いまのテクニクをもう少し早く教えてくれればよかったですね。天狗山では年輩層のスキーヤーは育ちませんよ。」

T「キユツキユツと腰をくねらせて曲る若手の中でシユテムボーゲンはどうもね。ハツハツハ。」

M「私は公約していることがありますが。多くの停年退職祝いはニセコか天狗山の頂上でやることにしているんですよ。」

K「その時はブランドでも持って参加しましょう。」

追記—松尾教授は旧高商クラブ真向いの官舎に御夫人と御二人で暮し、ただ一人の御愛嬢香子さんは数年前結婚されて(札幌藤女子大)山教授夫人)一女を設けられた。スキーシーズン外は釣をたのしまれる。道新所載の先生のエッセイは定評のあるところ。御一家の御多幸を祈って筆を擱きます。

楽我記

奥津峡



葉隠道人(大11)

吉岡、東郷、三朝等鳥取のいで湯を巡って翌日。錦織の山路を逢つて人形峠を越え、美作に出る。沿道の溪流また棄て難く、静と動の脈打つ流れは、行人をして旅の疲れを忘れしめ、あるいは静かなるいささ小川となり、或は奇岩、奇岩を噛んでは暗雪を吐いて奔流し、淀んでは流れ流れては淀み、平和な姫鱒の養魚場であるかと思れば、幾千年の伝説を秘む深淵となつて、青の深さを湛え鯉や香魚の安息場となつて居る。

ガイド嬢の美声も愈々佳境に入り奥津峡に至つて、絶景。鮎返りの滝音は無声にまさる寂びあり、幾段層の溪流と紅葉色なす四圍の山々も配合の妙あり、峡畔に温泉があり、大釣荘と書いてある。別名秋津荘ともいい、岡田茉莉子主演映画のロケ地となつてから、特に訪う人が多くなつたという。なるほど、幽境にふさわしく、鄙びた温泉宿である。二つの湯殿も時代を偲ぶ数寄屋造りで、世捨人にも洗心の湯である。奥津小唄に

「奥津なつかし湯ぶねの枕
夢をうつつに聞く瀬音」
がある。歌いて妙。
さりとて、心なきわざとも知らず
一つ二つ個室を覗いてみれば、そこ

楽我記

散歩と自然現象主義

山本俊雄

(前号の続き)

はしがき

本主義は、昭和二十年の年、当時の道義類庵の世相に鑑み、これを冊子となし、提唱せしものを、この度冊子に代へ、碑となし、提唱するものなり(私の道楽)

本主義は、提唱者が多年の研究生活において、具に体得せし、自然現象の神聖を、自家修養の糧として倫理化せしものなり。

基本観念
現世在りて来世無し

動物は、呼吸と、血液循環との停止によりて死の状態となり、生理機能を失う。次で、組織細胞の腐敗分解、または、燃焼すること等により有機質は無機質と化し、終末は靈なき土壌、または大気中に移行す。よつて、万事は皆生存中にあるべきなり。

されば、親への孝養も生前にあり「孝行を尽さんと欲せし時、親既に無し」また、俗間のいわゆる地獄、極楽の如きも、この世に在つて、あの世には無し「勤勞に勇む心は極楽にして、欲求のための苦慮は既に地獄なり」

神の遺徳は敬仰すべきなれど祈願は未だ心弱き者の求めなり神の加護は、われにあつて対象になし、されば、全力を尽して、然る後は「自然」に従への信念に徹し、祈る間あらば努めよ、戦勝祈願が勝利を齎せしや、しかして、宗教的にこれを観れば、自力悟入が宗教の最高にして、他力本願は象愚のための方便なりと知るべきなり。

心だに誠の道に叶ひなば
祈らずとも神や護らむ
人事を尽して天命を俟つ

一、自然現象と自然現象主義(略)

二、自然現象主義と社会生活

例示
その一、青壮年は、体力と純情とに
おいて優り、年輩者は、経験と常識とにおいて優る。されば、互にその長所と短所とを知り、相協力すべきなり。

その二、資本が、重きをなす場合は資本家を尊重し、労務が、重きをなす場合は、労務者を尊重し、兩者は、互に相協力すべきなり。

その三、男女は、生れながらにして解剖学のおよび生理学的に相異なる点を有す、されば、男女同権も履き違ひせざるように考慮すべきなり。

その四、身分の相異、教養の程度、あるいは地位等に差異はあるとも車内における乗客は、等く乗務員の職責を尊重すべきなり。

三、自然現象主義と個人生活
人類の福祉を、第一義としての努力による発明が、エチソン翁をして、大富豪たらしむ、されば、われわれは、自然現象の神聖を信条として、まづ努め、しかして、富これに附随し来らば、生活の科学化と向上を計り、もつて、生存を意義あらしむべきなり。

只要ニ堅忍ノ力ヲ一成功ハ自然ニ来ル
因に、美術、芸能、諸道等においても、名人、達人と称せらるる人々の精進は、つねに、翁の無我の境地と相通するものあり、また、聖人カンジイ翁は「努力せよ、世界のために、しかして報を求むるな」と、無我の神髓を唱ふ、篤と含味すべきなり。

四、結言
これを要するに、本主義は、自然現象の神聖を信条として、虚心担懐理に従い、常道を踐み、各々、その特能を発揮し、至誠事に当り、もつて、人間としての生存を意義あらしむるにあり。

十省
一、輕佻浮薄、附和雷同は、己の智
能未だ足らざるものと知れ。

二、独善にして、単純なるは、脳組織未だ疎雑なるものと知れ。
 三、目的のため手段を選ばざるは、未だ動物の本能を胎しをるものと知れ。
 四、無責任なる言動は、自ら己の不信を露呈するものと知れ。
 五、己の非を悟るもなおこれを改め得ざるは、心卑きものと知れ。
 六、面子や些事にこだはるは、狹量にして勇氣に乏しきものと知れ。
 七、みえ(虚栄)に捉はるるは、心貧しきものと知れ。
 八、邪推は和を乱し、自ら己を苦しむるものと知れ。
 九、未開の人種ほど、迷信の虜となるものと知れ。
 十、煩惱は、利己主義の発露なりと知れ。
 (提唱者 医学博士高橋孝太郎)

演出不しい若松教授

寺尾 八郎 (昭九)

いつか本誌に同期の藤井さんがものした先生宅への訪問録が載って居たのを読んで、同氏の筆致の旨さも手伝って私には、なつかしさが、こみ上げて来ました。といつて直接お便りしても思ひ出すのに苦勞して、揚句の果てにアイデンチファイ出来ないので、落ちてしようし、それに先生への思ひ出は緑丘人の共有財産でもありますので標題の企てを試みることにしました。それでこそ、私を思ひ出す、煩わしさを免がれませう、個人返信も要らないというものです。

その後私は恩師にスポットライトを当てさせて頂きますが、これには二つの制約が伴います。一つは物故教授は避けたい。なまじ対象にするに群盲象をさするの醜態を演じかねませんので、もう一つは現職教授も照射しません。在学生的の外れな考えを与えるのは憚られるからです。

先生どうも前置きが長くて失礼しました。先生には故里にてカクシヤクと悠々自適の生活を送られていられる由、心からお喜び申し上げます。と共に私も大変嬉しくたまります。砂漠でオアシスを探し当てた想いで、事情が許せば、すぐにも行って行きたいところです。藤井さんが羨ましいです。三十年の歳月は師弟を容赦なく隔てるものです。

それにしても、先生の講演はつい昨日のこのように鮮かに私の脳裡に刻みつけられております。開講当初テクストが間に合わず、半紙にタイプしたのを使いました。課外は別として授業では小間切れの英文にしか接したことのない、私には良い意味での驚異で、これでこそ小樽高商へ来た甲斐があると大いに満足したものです。

先生の講義を聞くに及んで、お先走りはやめるにしかずと悟りました。以後お膳立ても仔細に味いました。

その結果ラストリフは性格、描写、シチュエーションの設定、心理分析の微妙な所が、先生の講義でよく分り、O・ヘンリーは凄いと、うなりました。風の強い雨の明けの朝など、破風に伝わるツタの最後の言葉が窓外に見えるような気がする時があるほどです。

O・ヘンリーの奇想天外な起承転結の旨きには、ただただ嗟声をあげるのみでした。この頃のスリラーと来たら冗長なばかりで、単なる頁稼ぎに過ぎないと思口の一つも言いたくなくなる始末です。O・ヘンリーを選んで下さったケイ眼に感謝します。

後からテクストが来ましたが、内容に似合わず、薄紅色の薄手のお粗末なものでした。私たちのフトコロ具合をおもんばかつたのでしょうか。それにひきかえ題は忘れましたがベネットの作品は本国仕入れの原書で、小豆色がかつたエンジ色のラフなクロス張りの、いかにも英国風の重味のある装いで、いまだインクのおう刷り上がり立てのバツツとしたものでした。この作品は全部終らなず、他日読み切ろうと大切にしてみました。が読まない内に灰となりまして、

先生の授業には演出が全然なく、私たちはおのがじしんのペースでついで行けばよかつたのです。従って教室にはなにかホノボノとした暖さが漂っていました。口幅つたくて、気が退けますが、予習、復習にも私は打ちこみました。そのお蔭で英文学のダイゴ味を自分なりに満喫しました。

いつか晴れた日新講堂へ坂から下りて来た先生と通用門から出て来た私が見えるあたりで、ゆくりなくも同道する形となり、正門を左折して坂を上りながら正気察への分れ道までお話しするチャンスに恵まれました。二人共昼食に帰る時でした。

その折、先生は「先生でも御飯は食べるのだよ、寺尾君」と、こやかに謙遜な先生には珍らしく冗談を飛ばしました。なにとぞ再会の日が来るまで、おすこやかに過ごして下さい。六月八日に開かれる卒業三十周年記念式典には生憎欠席しますが、同期生が沢山集まります。先生の温顔をみんな期待して下さるから、熱海へおこしになりませんか。

(提案) さつぱり誌上を賑わさない教授を緑丘人を代表して会い、そのインタビュー録を載せると貴誌が媒体となつて恩師と卒業生との紐帯が一層緊密となり、貴誌も光彩を放つことでしょう。

下宿では一年先輩の拓銀取締役安田正義氏と佐々木勝氏がいた。安田氏は応援団長であり、佐々木氏は和服、げたばきに軍装して配属将校をカンカンにした奇傑であつた。この期にはNHK審査室の小熊健吉氏や文部省入りをした横田弘之氏などがいた。

あのころこの人



人物学園史

小梁川 重彦 (昭一〇)

吉米地教授の訓示

昭和七年春、入学試験のころは雪で始末の悪かつた地獄坂も入学式にはだいぶ歩きやすくなつていた。この日の伴房次郎校長の訓示は伊藤整が書いてるような「本校は生徒を紳士として扱ふのだから、それにふさわしい行動を希望する」といったもので、次に長身の、ややいかつい感じの紳士が歯切れ良いことばで注意を与えた。その中で「諸君は試験ができたからはいったと思つて居るが、他の人ができなかったからだ」という一節だけが頭に残つた。吉米地英俊教授であつた。多くの新進教授を擁して緑丘ルネッサンスといわれた学園生活に仲間入りしたわれわれは、緑丘新聞や商学研究、校友会誌を通じて、研究活動や文学活動、社会運動などが脈うっているのを知つた。

一足違いに卒業していった先輩に札幌大谷短大教授和田徳三氏や学大(函館)教授白山友正氏があり、緑丘の文学の血統をになう人々であつた。札幌から汽車通学をして居る上

級生に三信社長山本繁雄氏や道商工会議所専務理事藤良博氏がいた。藤良氏はラグビー部の主将であつた。同期では国鉄道支社調査役の野村信一、ソロバンのベテランだつたので彼の周囲の連中は授業時間は大いに助けられた。

物珍しい外人教師

新入生には外人教師は物珍しかつた。青い目のマッキンノン氏は松金野と書いて自己紹介をした。彼のユニフォームを写したが、その奥にあるヒューマニティーを知るには長い時間が必要であつた。元講師のフランク・ケリーという宣教師の家にはピリグリム・ソサイエティの仲間が集まつた。英語でしゃべれる会である。大手進という日本名で緑小学校に通つて居る坊やがいた。この坊やが戦後、アーマスト大学派遣教授となつて同志社にきたオーティス・ケリーであつた。

商業実践は高商の特徴で、クルーベの画中人物を思わせる糸魚川祐三郎教授が、つえを引きながら指導されるのは印象的であつたし、低い静かな声で英文学の講義をする浜林生之助教授のボーカー・フエースも魅力であつた。しかし、この先生のゼミナールにはいったとき、とことんまで学生を鍛えるきびしさに多少しりごみを感じたりもした。

仏語教室にも潜入

そのころ「学園に清きものあり、

中野清一、三筒清、若松清太郎と落書きしたほう(呆)助がいた。いざさか同感したが犯人はついにわからなかつた。「呆助」とはトンマ野郎に類する当時の学生語だつた。中野教授の静かな炎のような講義と学究的な態度を尊敬して居た。社会学、哲学、倫理学などであつた。三筒教授のドイツ語は明快な江戸っ子調で迫力があつたし、洋行帰りの小林象三教授の発音学は風味があつた。だがわれわれの関心はあちらの演劇、映画の資料が詰めこまれたトランクに向けられがちで、学生は教授にトランクをあけさせようと毎時間苦心して居た。「君、カザリン・ヘッパン」という女優がいるがね。あれはヘッパンだよ、Pはサイレントだよ」これは教科外授業の一部である。ときには松尾正路教授のフランス語教室に潜入して他人の授業をぬすんだ。フランス語は覚えなかつたが、その他の話はよく覚えた。私が外国語の諸先生から受けたものは、ずいぶん大きかつた。

二年になつて下宿した。クラスの顔ぶれも変わり、万国学生スキー選手で外国にいった四谷勇や合同酒精専務の野口正二郎がきた。野口はジャンプで鳴らして居たが、彼らのスキーは高橋次郎教授に負う所が多かつた。

和服に軍装の奇傑

秀才組では拓銀取締役の五味彰や北大経済学部の鎌田正三がおり、經理士の赤川賢之輔や日航調査役林健三らはいろんな活躍をして居るくせ

に成績もよい。不思議な存在だつた。当時、赤川は陸上競技、林は新聞編集をやつて居た。

外語劇に苦心する

すでに大西猪之介教授は伝説的存在だつたが、二年から経済原論を習つた数理経済学の手塚寿郎教授には深い敬意を払つて居た。先生の残された蔵書は手塚文庫として母校にある。

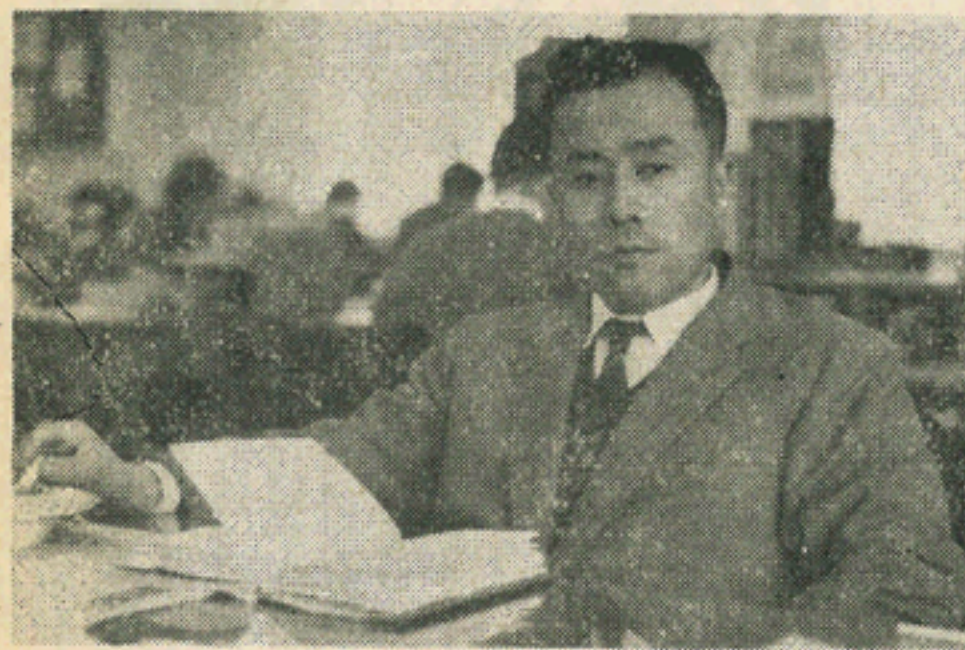
三年になると一層忙しくなつた。卒業レポートの準備や外語劇があるからである。レポートは室谷賢治郎教授にずいぶんお世話になつたし、学校図書館の木田橋喜代楨氏の手をもわずらわした。木田橋氏はいま札幌大図書館の事務長である。ドイツ語劇では栗林商會取締役高橋常次が相棒で舞台装置をうけもつた。舞台に使う松の木をヤミにまぎれて山から切つてかきつけてきたりした。ロシア語ではドリゾールの専務中島昭一がヒゲの村長で出演したりした。彼はスマイルニッキー講師のめんこだつた。高商数え歌「人も知つたる北海の小樽高商に入学す」から「とうとう学校を卒業し」にたどりついたのは昭和十年だつた。

余	緑
話	丘

三谷晃一詩集
会津の冬
昭和十七年
昭和十七年
昭和十七年

三谷晃一氏 (昭17)

詩集会津の冬を發刊



三谷晃一氏(一七)は福島民報編集局長である。今回詩集「会津の冬」を出版したが、現在までに「蝶の記憶」「東京急行便」の二冊が出版されている。彼は「詩集を出すときは、いつも作詩の上ばかりでなく、生活の面でも、ひと区切りをつけるような気分がある。ひとつのアイデア、あるいはテーマによって構成しよう。などとは考えたこともない。もともと寡作のせいもあるがあくまでも気質的なものであろう。決して当世向きではない。いろいろ迷ったが、よめめいたりして今日まで来たが、これからも、なるべく同じペースで、少しづつあからさまな自分を表現してゆくことに努めたい。変化するより、直球に活路をみいだす、というか、そういった目下の目安である。自信などというものはいくつになっても、そう簡単に生れるもので

会津の冬

薬ぶき屋根が
雪をのせて
傾いている
明かりが洩れているのは
人が住んでいるのだらう
しかし棲んでいるのは
生きた人間ではないだらう
亡霊がかくれている夜
ひとところだけ明るい街角を
曲ってゆくバスには
運転手も車掌もない
亡霊は
深く角巻をかぶって
ぼくが覗きこんだとき
雪あかりに
角巻の奥の眼が
やさしく光った

書評

作家 伊藤桂一氏

「戦場」「尾行者」「風景」等、心に残り、同代的、連帯感のようなものに打たれましたが、「ペンギン考」数章にいたりまして、きわめて深い共感と感銘を覚えました。これはまことに意味豊かな世界です。私は別に詩人の思想をたどっているわけではないのですが、こうした作品を読むとある種の救いを感じます。また、この一巻にいわゆる「詩語」的な用語の全くない爽快さ、これが実にいい気持でした。「ペンギン考」については、ここから引き出されてくる問題が実に多いのですがそれは、よく文意の尽くすところではありませぬ。暗黙の伝道に頼るべきでしょう。

俳人 高浜年尾氏

とりあえずさつと拝見しましたが終りの方の二頁にわたるのを読んで見て、入道雲が俳句的であると感じました。選挙も気のきいたものと思ひました。自由な気持でうたっている心持を楽しいと思ひました。馬のタワシに芭蕉の一句が働いているの

ないということもわかった。それはそれでよい。東京にゆきたいとも思わなくなった。田舎で自足しているわけではないが、むしろ居直るといところがあったもよいと思つてい。」と語る。

同氏は日本現代詩人会員でもあり詩集「蝶の記憶」で、昭和三十三年度福島県文学賞受賞者でもある。

・きんぼうげの歌(昭和三十三年)

も、流石に御地方の味と思ひました。

詩人 木下夕爾

詩集「会津の冬」ありがたく拝受いたしました。変らざる御精進の成果にて御同慶にたえませぬ。「過去」「戦場」「ペンギン考」等々、仲々すぐれたものだと思います。「過去」の中の、

そこで人は
手足をのぼせるだけのぼして
水死人のように眠り……
その黒い眠りのなかを
乗客のいない列車が
鈍い過去のきしみを残して
疾り去るのだ

は、緊密で美しく最も感銘させられた部分です。「会津の冬」では「辺境」「フキノトウ」「夜明け」などことに佳いと存じました。「新聞」という一つの枠のなかで書かれながら立派なものです。ほくも当地のローカル版に一月に二回くらい詩を書いたりしておりますが、その時の苦労を思い合はせてひとしほ感じました。

戦場ははるかだ。
みんな戦場のありかを
忘れてしまったので。
おぼえているのは
おれたち死者だけなので。

北海道文化財シリーズ

「アイヌ文化編」できる

越崎宗一氏(大一一五)資料提供



「北海道文化財シリーズ」(年一回刊行)の第六集として「アイヌ文化編」をこのほど、北海道教育委員の手で完成した。執筆は北大名誉教授大庭定男氏であるが、表紙(蝦夷クマ送り絵巻より)、蝦夷古画、風俗、画卷、色彩刷をはじめ多数の蝦夷風俗画を提供されたのは越崎宗

一氏である。写真、絵図百三十葉が収められ、七十四ページ、B五変形判。

- 目次を見ると
- ・アイヌ文化の意義
 - ・アイヌ文化と他民族文化との関連
 - ・衣食資源と生活具
 - ・舟作り家作り
 - ・漁猟とその祭事
 - (一)サケ漁とその祭事
 - (二)シヤマモ漁と祭事
 - (三)クマ送りとクマ狩り
 - 四クジラ、オットセイ、アザラシ
 - 漁とその祭事
 - (四)シカ狩り
- 文章は平易、道として一般向けにアイヌ文化を解説、紹介することは、これがはじめての試みという。希望者は札幌市北三条西六丁目、道教育庁社会教育課内、道文化財保護協会あて、二百八十円(送料五十円)封入で申し込むようとの事である。

文芸春秋五月号に

大庭定男氏 (昭一七)

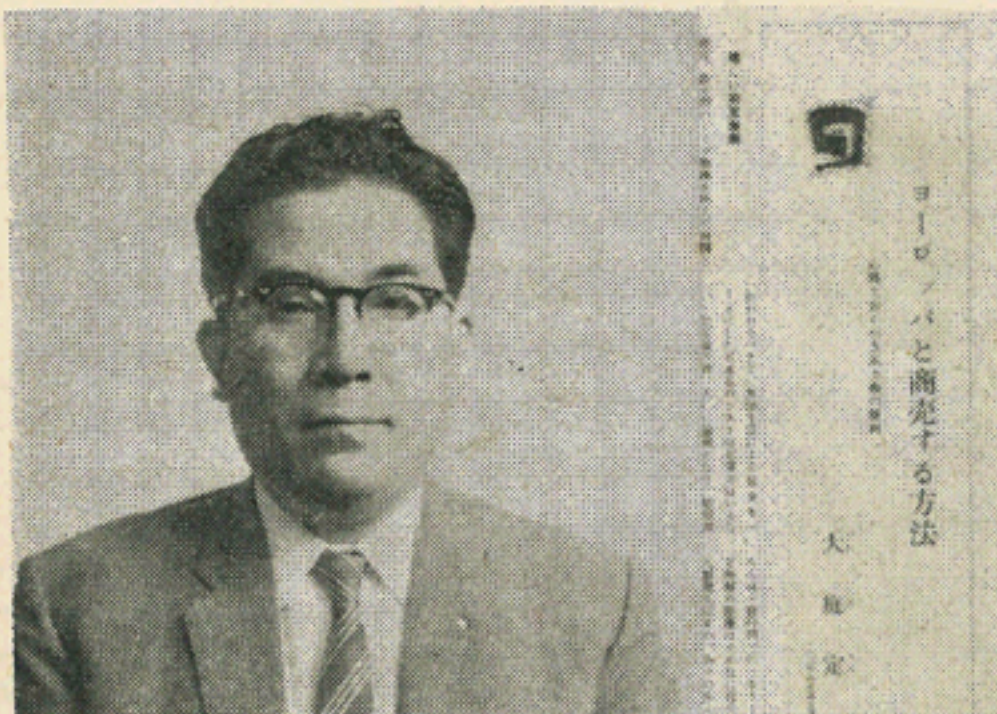
ヨーロッパと商売する方法を發表

「緑丘」三十六号の浜林生之助読後感を寄稿された三井物産調査課長大庭定男氏(昭一七)は文芸春秋五月号にヨーロッパと商売する方法と題して心得ておくべき五ヶ条の原則を發表した。海外に出たことのない

者には非常に参考となる。緑丘の一読をすゝめる。なお同氏は「文春」に書きましたのは、私が十年間(さらに二十年前に南方出征した時以来)あたゝめて

いた考え方を一応まとめるための序論的な意味で書いたものです。主として経済という観点から、ヨーロッパの本質的なものを追求したいと思つております。

ヨーロッパ経済やEECのことに興味のある緑丘人には「EECと日本経済」(土屋清編)をすゝめます。それには私も執筆しておりますが、私は在欧時代から欧州経済統合に興味をもっておりまして、帰国後、何時の間にかEECの研究者のように見做されて、昭和三十四年、三十六年(経済同友会ミツシヨウ)三十八年(外務省調査団)の三回に亘り、EECを中心とする経済統合の調査に行きました。その成果を一年前ダイヤモンド社から出版したものです。」と語る。



大庭定男氏

観光事業会長賞に輝く

京都 小田島和夫氏(昭三一)



目的一致するところである。次に彼の論文「地域経済における観光事業の経済効果について」の要旨を紹介しよう。(論文要旨)

地域経済における観光事業の経済効果は、地域開発効果であり、その内容は所得の地域格差、是正、貢献、効果である。経済効果の短期的、静態的、効果のみならず、長期的、動態的、効果をも、分析把握するためには、観光事業の経済的特性認識と、その動向判断が必要となる。

経済的特性としては(イ)観光消費を内容とするサービス産業である。(ロ)付加価値率が高い。(ハ)観光開発の対象となる資源範囲が広い。(ニ)設備、投資が比較的大きく季節性がある。(ホ)足(交通手段)に対する依存度が大きい等が、あげられるが、将来の動向としては、観光需要の構造、変化より、事業内容は休養、娯楽型から、観光、スポーツ型に重点指向が行われるであろうし、量的にはクラスレジャー型から、マスレジャー型に質的には低級消費増大型に移行し、必然的にルート観光、広域観光の方向をたどるであろうと判断される。

的効果に分けられるが、前者は投資効果と消費効果、後者は地域開発効果と誘発効果に分類しうる。マクロの立場からすれば投資効果の内容をなす需要効果、施設効果が地域の所得水準を上昇させる効果を有し、消費効果の内容をなす消費の地域外よりの移入効果、地域内拡散効果が、所得の再配分効果を示し、これらの効果が相俟って地域格差是正、貢献効果をあげると考える。ミクロの立場からすれば、地域開発効果は地域特性開発効果、産業誘引効果、産業体質改善効果とな

若い北斗寮出身者に寮のオバサンを東京見物に

「ストーム、寮雨から暗荒らし」と小樽への追憶は即一寮時代といっても過言ではない。既に懐しの北斗寮の姿は小樽にないが、一寮スピリットは変わらない。去年は一寮の東京コンパをやった。一つ今度は世話になった寮の小母さん(今も総合寮で世話が続いている山本ことさん)を東京へ招待しようという話が、昭和三年卒の提案によりまとまった。四月三日寮友に暖く迎へられて山本さんは空路初の上京をされた。「はとバス」で東京見物、夜は歓迎懇親会、次は「日光見物」等嬉しいスケジュールが一ぱい。小母さんを囲む会は三日夜、場所は緑丘会東京支部事務所(の御提供を戴いて和かに開かれた。ビールとウイスキーにすしをはさみながらの談話は尽きない。やがてさ、やかながら小母さんに記念品が贈られる。同時に既に亡き寮の名物爺、岩間さんへ香料が託され



た。かくて尽きぬ名残りを惜しみつゝ感激の寮歌大合唱で会を閉じた。(岡崎記)

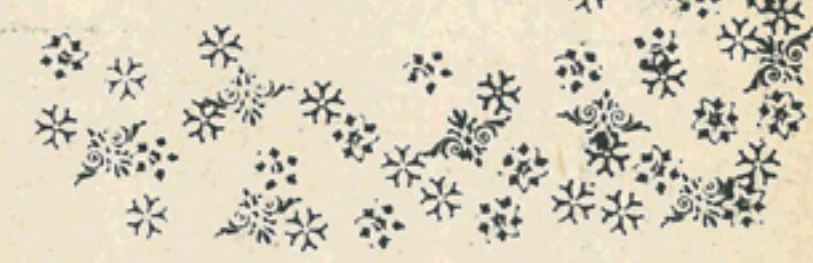
「地域経済における観光事業の経済効果」

論文

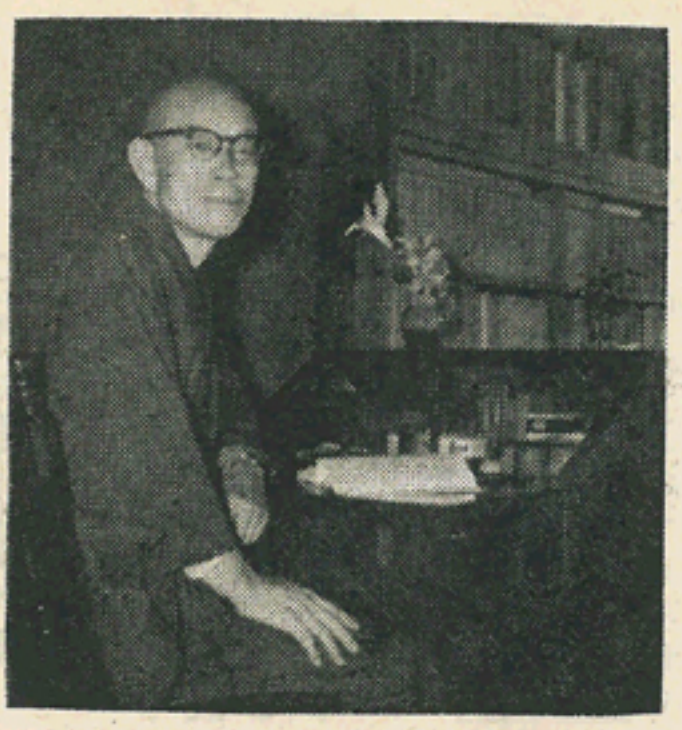
小田島和夫氏(昭三一)は、昨年京都経済同友会主催の論文募集に応募して、第二席に入選した事は、すでにこの「緑丘」誌上に発表した通りであるが、去る二月第三回観光研究論文が観光事業研究会主催、朝日新聞社後援で公募したところ、これに応募して、観光事業研究会会長賞を受賞。この程朝日新聞紙上に発表された。

同氏は日本新薬株式会社勤務し、営業部において業務係長を拝命して、仕事の余暇を利用しては図書館に、或は自宅の書齋で資料を整備するなど学究の青年である。度々御紹介するように緑丘京都支部長森下弘氏(日本新薬社長)の下にあって、京都支部のまとめ役を担当するなど、その熱心さは衆

僕の書齋



越崎宗一(大15)



小樽は坂道の町だ。だから小樽の市民の三分の二は坂の上に住んでいる。母校小樽商大は全市街と石狩湾とを一望の下に見渡す最高の場所にある。小樽と坂と丘とは切っても離れない。拙宅も御多間に洩れず住吉神社脇の丘の上に在って、街の南半分と銀鱈荘(いまは旅館、昔余市にあった鯉御殿)の建っている平磯岬とが遠

望出来る。庭らしい庭はないが、借景の美庭の持主だと自惚れている次第。いまの家は手狭で書齋なんでものには無い。そこで海の眺望のきく東側の中一間、長さ四間半の廊下兼書齋ランタに所狭しとばかり書棚をならべている。強いていえば、これがぼくの書庫である。午前中は太陽の光線が強くさし込むので、カーテンだけは下ろす。書物といっても数は知れたもの、北海道に関するものが最も多いが西歐人の北海道探検記なども或程度は纏っている。就中ペリー米提督の元老院版日本遠征記特装本(一八五六年刊、下田の男女混俗図の挿入ある俗に風呂屋版という)は先達でも古書通信社の八木敏夫さんが、初めて見たとほめてくれたので気をよくしている。それから魯西亜で初めて印刷された和魯通言比考(一八五七年刊、最初の魯和字典)、和蘭で一八九二年原色印刷されたアイヌ絵解説書などは書痴の垂涎ものかも知れない。戦前と戦後二度長崎を訪れたばかりはすっかり異国情緒にとつつかれ、南蛮紅毛切支丹関係の文献集めに浮気し、未だに多くのライブラリーの一角を占めている。また石黒敬七旦那との交遊から写真伝来黒船関係のものにも手を伸ばした。遍歴は更につづく、戦後故柳宗悦先生が民芸の講演に本道に行脚された頃から民芸物に凝り、手当り次第に集めたが、就中「工芸」という民芸雑誌百二十冊全部揃えたのが一寸自慢の一つ、こんな関係で版面界の

僕の書齋

「僕の書齋」欄を設けました。振って皆様の書齋を御紹介下さいます。写真、(及び図面)を添えて下さい。編集部が御伺いするとのいのですが、一寸出られませんで悪しからず。一行十六字で八十行(原稿用紙四〇〇字詰二枚)以内(送り先) 編集部へ

僕の書齋を読んで

「僕の書齋」西川君——なつかしいことでした。端正で、それでいて心にくいほど細かな心づかいのできる西川君の、ただずまいに接して、西川君の印象に新しい厚みが、幅がでてきました。これもあなたが心血注いでいる「緑丘」の余慶の一つ(大15 広島大学教授)

疲れにのもう!

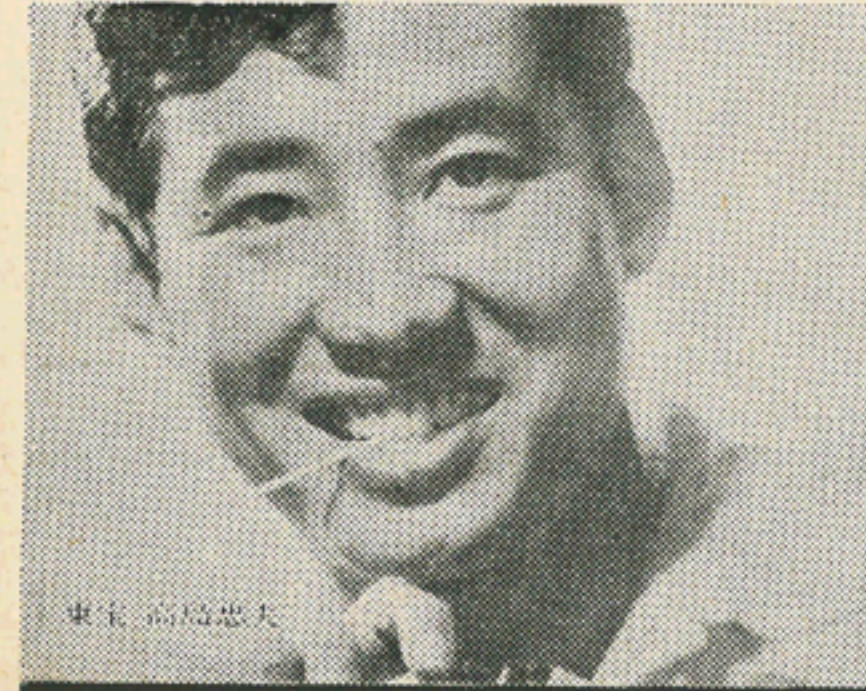
ローヤル・ゼリーとビタミンC 200mg./

アピ内服液

たっぷり飲めます。ステキな味です。強壯、美容、疲労回復、食欲不振に



日本新薬



まんびつ五人集

次回

竹内山内 大友櫻 上
内山沢村 野

謙隆 (大八五)
和一 (大八)
久好 (昭二)
茂好 (昭一四)
茂 (昭一一)

武蔵野の一隅から

藤居 元三 (東京支部)



まんびつに何か書けという指令？が旧友福田誠君から飛んで来た。物を読むのは訳ないが、書くということになると情けないことに、さっぱりペンが進みません。

さて平素はとんだ御無沙汰していましたが、指折り数えてみると地獄坂を下りて、なんと四十五年たったのに、おきれます。同窓会へ出て、お世話に出るのは血圧とか病気の事とか孫達成長の事が先で、若い層の方々から敬遠される組でしょう。

だがいま緑丘を拝見して、いろいろな年次の方々が夫れ夫れ活動して居られることが判って、まことに心楽しく存じます。おおよそ内容のちぐはぐな同窓会誌ぐらい興味をそらぬものはないのに、墓目さんの御奮闘により、面白く拝見出来たことを感謝します。

私信めいた書き方になります、第二次大戦の前と後とを生きて来た私達正八会の諸兄は、戦後の混沌時代を無事に乗り切って居られますか。

著書

西野 嘉一郎 (東京支部)



私は書物が好きで、学生時代から興味のまま会計、経営に関するものを集めたので、それが相当の数になりこの面の著書は古い時代から最近に至るまでものがあつまっている。私が学窓を出てもなく会計、経営に関する著書を読んでいるうちに、一冊まとめて出版しようと考え、相当の努力をし、雑誌「会計」に三カ年位、経営分析に関する論文を毎号執筆した。その後、数年たつて漸く一冊の書物になる位の原稿がたまつたので、これをまとめて「経営分析」の著書として刊行しようと企図した。その頃は書物を刊行することは大変むずかしく、出版元が仲々引受けてくれなかつた。

漸く当時雑誌「会計」の編集責任者であつた現横浜大学の学長黒沢清先生に御願して、一橋大学教授であられた会计学の大家太田哲三先生の序文をいただいて、高陽書院という本屋から「事業財政分析観察法」と題して出版されることになった。こ

れが昭和九年の春であつた。出版された私の書物は幸い好評で版を重ねることができて出版元もほつとしたようであつた。この書物がその後、幾度か書き改められて現在の中央経済社という本屋から出版されている新版「経営分析」である。約三十年間よくも絶版にならず続いているものだと思う。

この間発行部数約三万部以上にもなるだろう。しかも、この書物は私の学位論文にもなつた。何が幸するか、わからない。その後十冊位の著書をものにしてはいるが、いま考えてみると、よくもこんなに書いたものだと思う。しかし書物一冊書くことは仲々努力を要するもので、これは経験者でなければ、わからないと思ふ。それで私は新刊の紹介でも依頼されれば、どんな多忙なときでも、これを引受け、執筆してきた。最近ではある全集ものの編集責任者ともなり、翻訳書の監修者ともなり、また若い人の著書の序文を書いたり、ときには出版の御手伝をしたりして、学者でない私がいつのまにか学者の御仲間入りをしていることになった。

さらにここ数年来日本経済新聞社が一カ年間に出版された経済関係の

終戦時に小学生、中学生をもつた私は、新教育制度の在り方に鋭い批判を注ぎましたが、所詮は学校の先生も生きねばならぬ、食はねばならぬ、状態はどうにもなりません。私は朝日紙のマツカーサー回想記を読んでいますが、手前味噌の箇所も相当あるとの反対説もありますが、どつちにせよ、未だに落着かない状態が続いていて、是がいわゆる娑婆というものでしょうか。経済の建直しは貿易振興が至上であることは、私が南方から米国船舶で送還される船上で考へさせられて来たのですが、その時はこれからの日本人は各家庭に「自動車を持つこと」「電気冷蔵庫を持つこと」「オールウェーブラジオを持つこと」これが理想でしたが、今日この何れもが大の方の家庭で実現されて、流石に日本人は屈してはいないと、泌々感じさせられます。いまでは車はあるが、道路と駐車場に苦労したり、テレビのアンテナの立たない家は無いなどは、その時はまだ夢にも思いませんでした。

だが話は狭くなりますが、東京の都心は到る所掘り返して、それに街の交通網も甚しく、油断もスキもありません。スピードは能率上賛成ですが、安全高度が欲しいのは、私だけの考へではないと思います。通勤ラッシュの人混みなど、これで良いのかと考へさせられます。誰もが日常の業務とか、生活に追はれて、事が思うように運ばないと申します。勿論私もその一人です。

この追はれているという言葉が極めて自然に不用意に使はれていますが余りにも考へることや、やるが多すぎるのではないのでしょうか。アップルを服んでも一向解決つきません。テレビ、ラジオを引張り出すのは遅いでしょうが、でも日常生活で一時を過ぎ、疲れを癒す一役を買へます。一億総白痴(いやな響きがありますが)承知で視聴してはいますがその間は総てを忘れられるような気がします。通勤の際、乗物のなかで新聞のスポーツ欄に眼を通す、その間だけでも虚心になります。ゴルフ、テニス、釣、園芸、室内娯楽、一通りは囁りましたが、センスがないのか何一つ身につけていません。何か秀でたら、しあわせだと思ひますが、遂に擱めません。

濱林先生の追憶号拝見しました。大正九年から二十数年もの永い間、母校に御尽力せられたのに、私は大正八年に卒業しましたので、御縁がなかったのは残念ですが、溢れんばかりの追慕の記事は胸うつものがありました。特に御子息正夫氏が、現在母校教授として御活躍しておられる親子二代の御尽忠は、まことに奥床かしの限りです。お次は大山謙吉君にバトンをお渡します、よろしく。(大八)

先輩、友人に恵まれて

岡田 政次郎 (東京支部)



津久井先輩からのバトンをうけて、まづ頭に浮ぶことは二十六年前の天津時代です。時は昭和十三年の早春二月、安宅商会(旧名)の天津店開設の使命を帯びて単身渡航、戦時下の金融統制をうけて、金二千円を持参では心細いこと限りなく、しかし若い元気にまかせて大きな夢を画いて天津の法租界のホテルに居を構えました。

早速事務所の開設にかゝり、家賃や什器を買入れ、華人の使用人を探用すると残金いくらもなく、かねて紹介をうけていた横浜正金銀行天津支店を訪れて、恐る恐る借金の申入をしたものです。これが銀行からの借金の始まりで、その時御世話になつたのが津久井先輩。

堂々とした体格、スマートな物腰流石は正金マンとして、長年外地生活を生につけた方だと感心、借金の方も大いにお願ひした次第です。当時はインフレ昂進の初期であり、金さえ借りれば儲けることはいと易く、子供が好きな遊びにうつつを抜かすように夢中で働いて、遂に終戦、惨憺たる姿で荒廃した祖国に帰らされたわけですね。

当時津久井さんは何処に居られたか。とにかく戦後は東京銀行の大阪支店長として大阪財界をリードされさらに紐育支店長、常務取締役として我國の経済界のため大きな貢献をされたことには間違いありません。早いもので、卒業後三十七年が経

それから

福地 貞雄 (東京支部)



早いもので小樽を出てから二十五年になる。昭和十七年に国鉄に奉職し、役人稼業を始めてからも二十五年になる。小樽の街はなつかしきかなと啄木が歌つたごとく、小樽はなつかしきで一杯である。仕事の関係で年に一、二度は北海道視察に出かけるが、小樽の声を聞くたびに、昔が思い出され、懐旧の念一入なものがある。小樽駅に勤務していた細井君にも、小樽の駅頭で会つたが、いまは国鉄北海道支社の文書課長として活躍している。時折上京して来るので昔語りをして

いる。茨城の同郷から緑丘に学んだ櫻村君には終戦直後の混乱と欠亡の時期に随分世話になつた。復員後間もなく国鉄に復職し、最初の赴任地盛岡でなげなしの生活をしていた処に妻の大病で色々資金援助を受けた

こともあり、時折り会って酒をくみかわし昔話に花を咲かせている。野村君とは大学も一緒で、時々会う機会があり、先日は横浜港を、あの高い塔の上から見下しながら旧師、旧友の思い出話に花を咲かせた。役所勤めの関係で地方巡業をして最近東京に戻ってきたが、先頃ゆくりなく吉祥寺駅頭で岩田一男先生に会い、元氣な姿を拝見し、多忙な日課を送っておられることを伺った。古谷君は私が在勤中の静岡へも訪ねて来られ、東京でも度々訪ねてくれて旧交を温めている。今年の秋には北海道を一週りし、曾遊の地小樽を訪ねてみたいと思っている。次は同郷の常陽物産株式会社長の櫻村久好君にお願い致します。(昭一四 国鉄本社総裁室調査役)

生命を購ふ

角谷 栄作

(東京支部)

私達はもともと人生五十年というところでスタートして来た組であるが、戦後平均寿命がだんだん延びて来て近頃では七十年も生きられるということがある。天恵のボーナスとして二十年の追加寿命を貰ったような気がする。誠に有難いことではあるが、さてこのボーナス全く無条件で頂けると考へるのは少しポロ過ぎるのではないだろうか。ことに若い時から生活に無

まんびつ五人集

理無茶を重ねて来た私のような者も同等のボーナスに恵まれるはずはないと思はれる。私は去る一月で五十才の誕生日を迎へたのであるが、あと二十年の寿命をこれから頂戴するうえでのおべツカとして三十年間愛顧し、続けて来た煙草を、まづ止めた。煙草こそ私にとっては何物にも代へられないいとほしいものであった。その証拠に二ヶ月経った今日でも、なお煙草を悠然と吸っている夢を見る。煙草の次には節酒だ。特別のことがない限りビール一本を限度とする。ゴルフは一ラウンド以上はせいぞい半ラウンドまで、マーチヤンは夜は十一時まで等々、これから好きなものを小出しながら順々に天にお返しする積りになっている。追加寿命を一年づつ分割購入する貴重な代価として………想へば他しいことである。次は上野茂君に願います。(昭一一 株式会社高義商店)

異動(転居)

- 富永義(昭一三) 第一銀行池袋支店 東京都豊島区池袋二ノ一三〇
- 大泉行雄(大一一) 横濱市神奈川区六角橋八八六
- 杉本敏雄(昭一〇) 高槻市野見町九五六
- 永井静男(昭八) 東京都杉並区和田本町一〇五七
- 小沢松次郎(昭五) 函館市五稜郭町十五番地



日立商品特約店

日本電気機器株式会社

取締役社長 天野 雅 司 (大正15年)

本社 サクラバシ日立シヨーストール

大阪市北区曾根崎新地2丁目50番地

電話大阪 (361) 8871 番 (代表)

大阪 (361) 4602 番 (夜間専用)

異動

栄転

- 松橋忠光(昭一九) 警察庁警備局警備第一課兼資料課理事官警視正(福岡県警察本部警備部長)
- 佐藤栄治(大一一) 東洋製缶(副社長)
- 町野正雄(昭六) 大阪商船三井船舶営業統轄部長(商船大阪支店長)
- 木村章三(昭一三) 松下電器産業株式会社海外事業本部次長
- 大阪府門真市大字門真一〇〇六(電)大阪(九九一)一一二二
- 亀井尚一(昭一八) 東京銀行神戸支店(カラチ支店)
- 三浦儀三郎(昭五) 日本調査株式会社(日本生命保険)
- 大阪府東区今橋四丁目 秋葉隆一郎(昭一一) 三菱鉱業株式会社室蘭営業所長(苫小牧港開発株式会社)
- 松岡卯之典(昭一一) 神戸銀行東京外国部長(ニューヨーク支店長)
- 三野六郎(昭一一) 住友生命保険月掛保険部長(東京月掛営業部長)
- 我満博仁(昭二五) 日電家庭電器株式会社出張所
- 尼崎市今北字稲葉荘四丁目一七 竹島篤二郎(昭一四) 大阪商船三井船舶門司支店副支店長兼三井ライオン興業門司支店長

- 中田昭生(昭三七) 大和ハウス工業株式会社付(西島製作所)
- 大塚誠四郎(昭一三) 第一銀行本郷支店(三宮支店)
- 西田豊彦(昭三一) 札幌東商業高等学校(芦別啓南高校)札幌市厚別町東区
- 杉本敏雄(昭一〇) 日魯漁業株式会社支店長
- 大阪市東区高麗橋五ノ五〇朝日生命ビル内 電(二〇二)八〇六一
- 永井静雄(昭八) 京北海運株式会社営業部長(三井船船)東京都中央区銀座東四丁目四(新研ビル四階)
- 小沢松次郎(昭五) 函館商業高等学校長(北海道士別商高長)
- 塚越誠(昭九) 三井建設株式会社(三井鉾山)
- 安立秀彦(昭三一) 北海道拓殖銀行東京事務所総務課(日米会話学院出向)
- 久保直人(昭一六) 住友海上火災保険株式会社(四日市支店)
- 小河成美(大一一) 東海大学第四高等学校長(小樽緑陵高等学校長)
- 石黒正夫(昭一四) 野村証券公社債引受部長兼法人本部付(西部本部長)

転居

- 松橋忠光(昭一九) 東京都北区赤羽台公務員宿舎RD三三三

- 中野孝太郎(昭一一) 東京都渋谷区八幡通一ノ三四 青山(四〇二)八二三三
- 秋葉隆一郎(昭一一) 北海道室蘭市緑町四〇番地
- 北村良吉(大一一) 大津市中庄二丁目一七番一五号
- 津久井七雄(大一一) 東京都渋谷区原宿二丁目二〇九 電(四〇一)一三九七番
- 小宅元義(昭一一) 横濱市南区六ツ川町字大丸一二四 九バブコック日立六ツ川寮
- 近江光喜(昭一九) 東京都新宿区下落合三丁目一四三 四 三和銀行下落合寮二〇二号
- 矢野正郎(昭一一) 東京都武蔵野市境桜堤公団一二〇 一五
- 中田昭生(昭三七) 大阪市東住吉区瓜破東之町九三二
- 大和ハウス工業株式会社(瓜破住宅)
- 塚越誠(昭九) 東京都三鷹市上連雀八三九
- 安立秀彦(昭三一) 東京都新宿区柏木三の三〇一拓銀社宅
- 西田豊彦(昭三一) 札幌市南五条西十三丁目
- 札幌市南五条西十三丁目 鮎物資郎(昭三〇)
- 名古屋市中区和区宮東町二九五 蔵建蔵(昭八)
- 山形市香澄町鉄道宿舎一号 向当賢一(大一一)
- 茨木市東宮元町一三二九 渡辺羊三(昭三)
- 小樽市緑町五の七二

広告マツクと美術印刷・紙工品



三優社

株式会社
 京都市下京区寺町通松原下ル
 TEL. (35) 0271-4950-7713
 取締役社長 山村太兵衛 (昭12)

是非一度皆様からの御用命を……特別奉仕

早や目の40周年クラス会 (大正14年卒)

夫人を交えて 48名 3月21日



業四卒 十周年 正確に 和昭と 十年に だのな 早くも 構はな ないは かない 昨年



(御狩場焼の夫人達)

幹事 進藤、菅沼、鈴木信の三君
 場所 伊豆船原温泉
 日時 三月二十一日(土)
 会場 船原ホテル は伊豆仙境には
 珍らしい豪華な建物で、六万坪の庭
 園内には鮎釣場、クレー射撃場を備
 へ家族向にもよいホテルである。
 六時より大宴会場でのクラス会は
 いまは亡き級友の冥福を祈り黙禱の
 あと、菅沼幹事から挨拶、進藤幹事
 長からは、いままでは仕事一途にや
 って来たが、これからは大いに人生
 をエンジョイしようではないかと発
 言が、室谷さんの緑丘回顧、
 同伴女房の紹介や近況報告、酒声次
 第に高まり、宴愈々酣。これが卒業
 四十年のおやじとは思へぬ元気のよ
 さ、はた目には羨ましい限りであろ
 う。
 また夫人達は何れも初対面である
 が、亭主の友人となれば、四十年來

十月東京在
 住クラス会
 の席で提案
 され、待っ
 てましたと
 ばかり、集
 ったのが、
 東京一八、
 北海道五、
 関西六、東
 北、信越
 八、同伴の
 夫人一〇名
 と室谷先生
 を加へると
 四十八名に
 上る集りと
 なった。

の親交があったように、うちとけ、
 女学校のクラス会のように話はず
 んでいた。また夫人グループへ遠征
 して来た者から、亭主の緑丘秘話や
 伝説を聞かされて怒るところから、結
 構楽しんでいたようにも見受けられ
 た。次回には夫人同伴はもっと増え
 るものと思はれる。
 飲むほどに酔う程にいつはてると
 も判らない饗宴もホテルのオーバ
 タイムとなって、応援歌の合唱によ
 って第一夜の幕を閉じた。
 翌二十日は再び大広間で朝食を
 とったあと、居室やロビーで寛ぐ者
 や鮎釣、射撃に打興じる者など思い
 思いの行動をとり、昼はホテル名物
 の野趣豊かなお狩場焼によるお別れ
 パーティーと相成った。
 席上茶目ケ幹事の品定めによる白
 黒光コンクールは
 白頭賞 東君を抑へて間宮君
 光頭賞 佐藤君の独走
 万年青年賞 学生時代そのまゝの
 若々しい黒髪の伊藤整君
 に賞品が贈られた。
 二日間に亘る四十年クラス会は盛
 会裡に幕を閉じ、お互の健康を祈り
 また逢う日を約し、西に東に散らば
 って行った。
 出席者
 室谷先生、生方、原野、金岡、進
 藤、早坂、原田、森下、藤森、高
 橋武、北村良、間宮、三村、中
 井、高橋格、杉江、菅沼、佐藤、
 大沢、錦石、畑、伊藤、白井、屋
 代、間野、安西、鈴木信、東、小
 柴、北山、中村、金谷、松林、
 岡、萩原、小川、三浦、広川、
 (畑記)

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

昭31年卒

三一会(大阪)開く

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆



二月十日(月)大阪は、本むさし
 会館にて久し振りの三一会が催され
 た。お客様は東京から前期出張中
 (用件は一向に分らぬが)北海道銀
 行の磯波仁君、集える若人は、京都
 の小田島和夫君(日本新薬)大阪の

安部盛之君(万商)西田勉君(木下
 産商)竹中正親君(日電家庭電器)
 そして山崎真治君(雪印乳業)の総
 勢六名。
 小田島君が、風邪薬、胃腸薬、そ
 れに強壯剤アビを宣伝よろしく各人
 に配給。次いで山崎君が、奥さんに
 提供と前置きし、バターチーズを全
 員に差し出すとサービス嬢(?)私
 達にも頂戴と云い寄る仕草に大笑
 い。何せ滅多に会いぬ連中が、磯波
 君の来阪を機会にやりくりをつけて
 集まつたので、話題は豊富で、磯波
 君の例のボーカルフエイスで、ぼく
 は未だ独身だなどといわれると全く
 本当のように聞えてくる。(もし本
 当なら、まだ女性に頼られないとは
 誠に頼りない奴だ)、われわれの当
 番になったサービス嬢は、偶然にも
 小樽の出身で、いやが上にも小樽へ



の郷愁がつのり、妙見川のどこの小
 路になにがあった、あそこになにが
 あったと話しはつきない。
 そのうちに新薬の話になり「イ
 レノール」(入れるに通じる)とい
 う商品名にし、夫婦仲むつまじくな
 らざるを得ない特効薬を小田島君に
 試作願うことに象徴一決した。
 酔がまわると下宿の娘のおもいで
 話しとなり、当時のあわい恋人を聞
 かされ座は熱してくる。
 小田島君が口火を切ると踊りやら
 歌が出るわ出るわ。サービス嬢の持
 っているアンチヨコ手帳には下品な
 (上品なではなく)歌から下品な歌
 まで最低なやつがギッシリ書きこま
 れてあるので、それを写すやら、彼
 女が歌うのを速記するやら、学生時
 代の講義を聞いているような真剣さ
 で、全く研究熱心な歌と踊りの部で

- 緑丘総会とクラス会合予定
 (総会)
 五月十三日 京都支部(順正)
 十四日 神戸支部
 十五日 大阪支部(中之島
 銀行協会)
 二十日 名古屋支部(浩養
 園)
 二十七日 東京支部(大手
 町・大手ビル)
 (クラス会合)
 六月七・八日 昭九会 三〇周
 年記念

した。夜がふけるにつれ、皆女房を
 思いだすのか、そろそろ散会にしよう
 ということになり、なにか機会があ
 ったら、またいつでもはせ参じる
 ことを約して幕となった。
 在阪の三一年卒業者の健在なりし
 ことをお知らせして筆をおく。
 (山崎真治記)
 昭九会 三〇周
 年記念全国大会
 本年はわれわれが緑丘の学舎を奠
 立って、丁度三十周年に当ります。
 会員多数の予てからの熱望により、
 われわれ昭九同期生の全国大会を開
 催することになりました。
 私共は準備委員を依頼され、いろ
 いろ計画を練った結果、なみなみな
 らぬ恩顧をうけた諸先生もお招きし
 それにできれば会員夫人のご参加も
 頂いて、左記により記念大会を盛大
 に開催することになりました。
 (日時)六月七日(日)一八日(月)
 七日午後四時開宴、一泊のうえ、
 翌日正午までに適時解散
 (場所)熱海小嵐一、五七四
 亀甲熱海保健荘
 (会費)本人(東京周辺)五千円
 (右以外)三千円
 夫人 二千円
 (家族アルバム並に名簿)ネガ(本
 人をいれた家族分)一枚を御送附
 の事
 緑丘昭九会三十周年記念全国大
 会準備委員
 (東京都中央区銀座七丁目六
 双葉ビル)緑丘会東京支部内)

さむらい会(昭二)例会



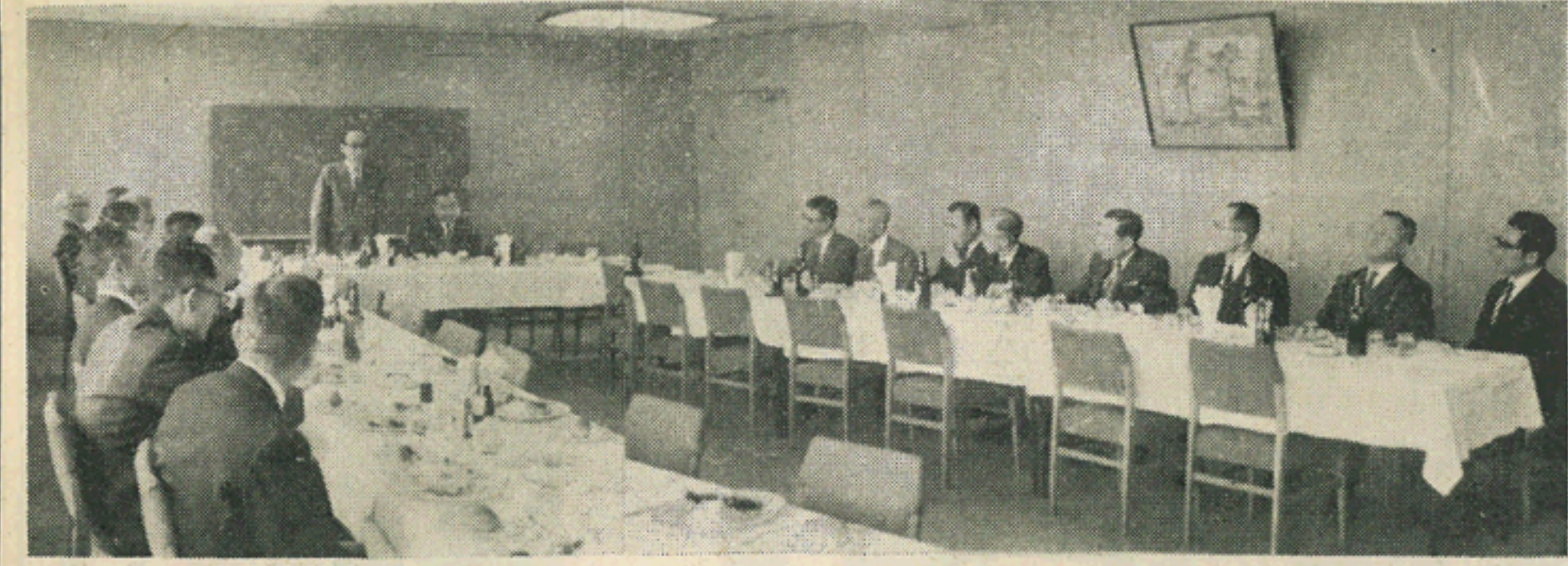
二十八年間の各人各様の人生経験などを語り合ったが、さすがにお互も五十に手の届く年頃、その道の衰へが気にかゝるか、ナイターを話せば声がかゝる。その方の話にかけては練達の士数多く、小樽時代の初陣功名談から近くは奥さんとの回数までまた若き日の純真な恋物語に一座をシンとさせるなど、春の夜の集いにふさわしい盛会であった。

雨に叩かれはしたが未だ都のあちこちには、咲き残りの桜を賞でる人も少くない四月半ば、我がさむらい会は何時ものように新富町の躍金楼(テツキンロー)で春の例会を催した。

- (東北) 小野寺佐君、兼子清一郎君
(関東) 高橋正敬君、若公次郎君、小島典春君
(東海) 弓田卯太郎君
(阪神、北陸、中国) 藁目英三君
(四国) 久松覚一君
(九州) 藤本雅寿君
当日(四月十四日)の出席者次の通り
越崎清二君、本間誠一君、紫竹徳津視君、五十嵐規君、砂子沢正四君、荒井正善君、大田末穂君、平賀泰正君、高橋正敬君、若公次郎君、小島典春 計十一名
(三九、四、二二 小島典春記)

三月十日昼食会(大阪支部)

広島支部長 中野清一氏(左)を迎えて 広大教授



三月十日大阪支部昼食会は広島支部から広島大学教授中野清一氏を迎え、労使関係新動向をめぐって」と題し、約五十分亘つての講演をお願いした。内容を要約すると次の通りである。

(一) イタリアや労使関係の動向。産別組合の組織近代化は組合の中央集権化をもたらした。普通なら、全国的斗争の激化が当然予想されよう。しかし、イタリアではフランス同様にかような結果を伴っていない。むしろ逆の動向を示している。何故か。

(二) 特に三つの事情の相関が背景にある。技術革新の導入は各企業単位の労使密着をもたらす。労働条件の改善前進は企業毎に取りきめられ着々と実施される。企業の国内・国際競争力の培養に労使共に第一の重点をおく。労働立法の益々の完備も全国的斗争の意義を薄からしめる。産別組合の集権化は、かりに官僚制化を伴わぬとしても内外の諸情勢に即応できる機動力を減殺させる。勢い中央での団体交渉は斗争含みから調整含みに移動せざるを得ぬ。純技術的、形式整備的な交渉のみが全国レベルで行われ、実質的、内容的な折衝は企業やプラント毎になされるようになり、それが、また企業単位の労使密着を益々拍車づける。

Advertisement for Brandor beer. Includes a bottle image, a group of people drinking, and text: 'ブランドーの新しいお酒!', '新発売!', '若い仲間のあいだで話題を独占しています。これからの季節は つめたくしてどうぞ。' Price list: 丸びん 350円, ポケットびん 120円. Logo: brandor, 合同酒精.

大阪支部

四月度十日会

ブランドールPR会



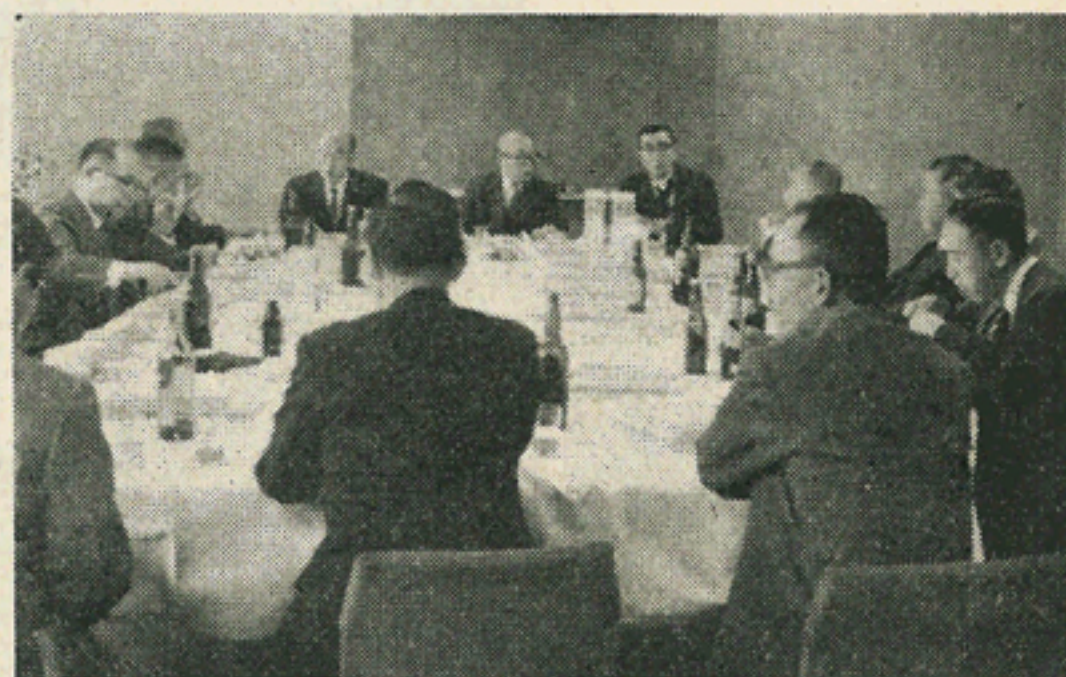
合同酒精協会の新発売品ブランドールが関西へ進出したのは三月であった。同社専務取締役野口正二郎氏(昭一〇)は、これを記念して緑丘会大阪支部のために、試飲会を催したい旨、藁目副支部長を通じて連絡があり、四月十日来阪を機会に、PR会を開催すべく準備をした。折悪しく野口専務急用のため、来阪は見合せとなり、昼食会の席上ブランドール大瓶と出席者一同にポケット瓶がパンフレットと共に届けられた。

定刻十二時十五分。若山幹事長の司会で開催せられ、藁目副支部長(石田支部長出張

中)は野口合同酒精専務(昭一〇)の人となりを紹介し、ブランドールの本日ここに届けられた由縁を説明、東京製品の関西進出に同族意識を発揮して協力し、口コミによる宣伝を願いたいとPRする。

本日会議の内容は緑丘会大阪支部定期総会の日程(五月十五日に決定)及び方法、雪印乳業山崎君の東京転任挨拶、学生会館日程等について決議や報告があった。

寄贈のサツポロビールとブランドールで四月の天候も六月半ばと思わせる今日、さらに体温を暖めてこれからはうまいと席上に空瓶が立ちならび一時半開散した。



緑丘人の趣味

作成中・申込受付

緑丘人から「緑丘」綴じ込み表紙の申込がありますので、唯今作製中で、(五月下旬出来上り予定)三年分の「緑丘」を綴じ込めるように計画しました。

希望者は二〇〇円お送り下さい。出来次第送いたします。大阪市東区道修町三丁目 塩野義製薬株式会社 藁目英三宛

「陶磁器特集」を計画

緑丘人の趣味、「陶磁器の特集」を計画しましたので、皆様の愛蔵の品、陶器観眼等について一筆御寄稿下さい。果して特集という所まで書き付けられるか、どうか心配しておりますが、この種の計画は初めての試みであり、緑丘本部会報では出来ぬ所をやって見ようとの野心もありません。

(メ切) 六月十日

(原稿) 用紙は一行十六字で願います。枚数四〇〇字詰原稿用紙(下又は上、四段あけて)三枚以内

(写真) 成るべく写真鮮明なもの(送附先) 編集部宛

広告お願

一回(一頁全段) 一、二、〇〇〇円
一回(半段) 六、〇〇〇円
一回(1/4段) 三、〇〇〇円
年間契約は特に割安にいたします。代金支払は誌上掲載後で結構です。【広告原稿】は必ず白黒で願います。色彩原稿はもう一度トレースしなければなりませんのでお送りにならないように。

編集後記

☆三十九年度の第一号をお届けします。三谷晃一氏、大庭定男氏、小田島和夫氏等の三十代、四十代の緑丘人の活躍の一面を紹介出来たことと学窓を出て僅か五・六年の青年達が学生時代にお世話になった寮のおぼ

さんを東京に迎えて都内を案内したことなどは、まことにほろえましいニュースであり、若々しい「緑丘」編集のための材料を提供していただいた諸兄に御礼を申し上げます。これ等若いベテランの活躍や心温まる大きな親切も「緑丘」を知らない許りに、狭い世界で暮らしている緑丘人も多い事でしょう。

☆「緑丘」に関心のない人も多い反面、人づてに、あるいは北海道新聞での紹介記事を読んだといつて申込んで来る緑丘人もいます。

☆「緑丘」の良さを育てるために社会での同窓の活躍をお知らせして何らかの糧にしたいものです。少しでもこの「緑丘」がそのために役立てば幸いと思えます。

オリンピックの年に贈る!

世界の味



御中元に絶賛好評

全国デパート・有名食品店 明治屋等外商部取扱

エム・シー・シー食品株式会社

代表取締役 水垣敏正 (昭五卒)

神戸市長田区菊藻通5丁目15 TEL神戸(67)1245(代)